

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No.150 平成25年7月15日

発行 社会福祉法人 武蔵野会

本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509

<http://www.musashinokai.jp/>

特集 武蔵野会創立50周年の集い 報告



2013年6月22日(土) 午前11時～午後2時
グランドプリンスホテル新高輪 飛天



開場直前の「飛天」の間

記念式典

- 主催者挨拶
- 来賓祝辞
- 来賓紹介
- 役員・評議員紹介
- 祝電披露
- 永年勤続職員表彰

交流会

- 乾杯
- アトラクション
- 弦楽四重奏
- 管楽三重奏
- 大関 琴 欧洲関による
お楽しみ抽選会
- 閉会挨拶



記念式典



オープニングのウェルカム演奏と交流会の前に美しい調べを奏でてくれました。同時に、2つのスクリーンには「武蔵野会の歩み」と「24事業所の施設紹介」をスライドショーでご覧いただきました。



↑【エルパカルテット】
弦楽四重奏
日本福祉大学理事長他
市・区役所関係者紹介
← 武蔵野会・理事紹介

提携法人関係者紹介 →
← 武蔵野会・評議員紹介

↓ 永年勤続職員表彰



来賓紹介

〔ご祝辞を頂いた方を除く〕

日本福祉大学理事長 丸山 悟 様

東京都共同募金会常務理事 小海 博指 様

八王子市健康福祉部 高年齢者・障害者担当部長 豊田 聡 様

練馬区健康福祉事業本部 福祉部長 中田圭太郎 様

小平市副市長 教山裕一郎 様

葛飾区福祉部部長 丹 保 様

世田谷区保健福祉部 障害者地域生活課課長 成田 修 様

千代田区保健福祉部生活福祉課 課長 猿渡 裕司 様

文京区福祉部障害福祉課課長 渡邊 了 様

提携法人 昭徳会(名古屋) 理事長 鈴木 正修 様

提携法人 天竜厚生会 常務理事 池野谷博信 様

提携法人 札幌滋啓会 専務理事・総合施設長 深谷 仁 様

提携法人 甲山福祉センター 常務理事 下川 仁夫 様

提携法人 横浜市福祉サービス協会 専務理事 吉野 明 様



入場



受付

関係機関、社会福祉法人等のご来賓、利用者、ご家族、役員など、約900名のご出席をいただきました。

主催者挨拶



武蔵野会 上野 純宏 理事長



東京都福祉保健局
障害者施策推進部長
山岸 徳男 様

来賓祝辞



大島町 町長
川島 理史 様



東京都社会福祉協議会
副会長・常務理事
小湊 哲二 様



日本福祉大学 学長補佐
社会福祉学部教授
原田 正樹 様

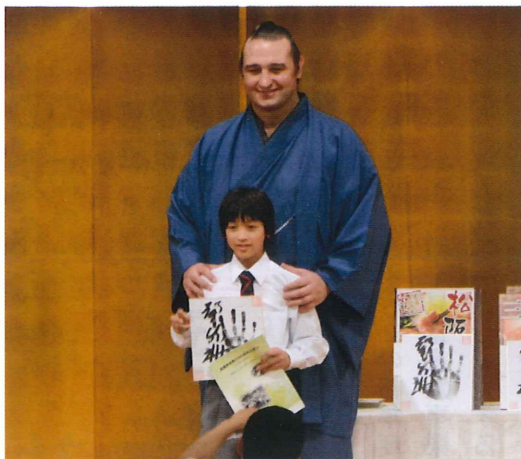


創立50周年記念誌
「理念とともに歩んだ50年」





交流会



当選した子と記念撮影



大関 琴欧洲関、登場。お楽しみの抽選会が始まりました。

管楽三重奏【エルパトリオ】
交流会の最中ですが、すばらしい演奏を聴かせていただきました。



45周年に引き続き駆けつけてくださった琴欧洲関。参加者からのツーショット撮影、握手に快く応じていただきました。



役員の皆さんで出入口にてお見送りをしました。

お見送り



高橋 信夫 理事・本部長

閉会挨拶

お礼の言葉

武蔵野会創立50周年の集いに、ご多用の中ご臨席を賜りましたご来賓の皆さま、各地区から多数参加して慶びをともにしてくださいました利用者ご家族の皆さま、本当にありがとうございました。

集いの当日に直接に、あるいはその後メールやお手紙で、「利用者が多数参加されていて良かった、温かい手づくり感があつた、琴欧洲関のサービス精神に感動した」等々、多くのうれしいご感想を寄せていただきました。

記念誌「理念とともに歩んだ50年」の編纂も含め、記念行事の企画や実施に頑張ってくれた職員の皆さんにも心から感謝いたします。

今回賜りました多くの皆さまのお励ましとご期待を糧として、武蔵野会はこのからの50年もしっかりと歩んでまいりたいと存じます。

社会福祉法人武蔵野会

理事長 上野 純宏



乾杯発声

廣本 肇 理事



交流会の前・後はロビーでの施設作品販売が盛況でした



シェフがひとつひとつ盛り付けてくれます。



日本料理、西洋料理のそれぞれのコーナーにはご馳走が並び、行列もできました。



各テーブルでは料理を囲んで歓談の花開く。



事業報告書 (抜粋)

運営全般

第3期3カ年計画の初年度として、到達目標を見据えた事業活動を、法人理念「自分を愛するよう、あなたの隣人を愛せよ」を基本に据えた理念経営のもとで実施した。

今年度は、理念経営の柱となる理念研修を継続するとともに、新しく事業種別毎の部会を役職者を中心として設け、理念が日々の支援実践に生きているかを検証し、武蔵野会としての利用者支援を3か年でまとめることにした。初年度の今年度は各部会で施設の現状と課題を把握するところから始めた。主に医療的対応、高齢や重度重複障害への対応、就労支援の対応、地域生活への対応を課題の中心とした。

喫緊の課題である次世代育成については、意識した取り組みを以下のように実施した。①管理職が

新規事業としては、8月に練馬区北町にケアホーム「きたまちホーム」が完成し、北町福祉作業所に通う利用者が4名入所した。さまざまな愛育園が、八王子市の要望に応え、次年度に市内の片倉で、20名定員の分園(児童発達支援事業)の開設にむけて、法人と準備を進めた。また、市内柵田の土地を利用して、知的障害者の生活介護施設やショートステイ、ケアホームの建設と運営の依頼が土地の所有者からあり、八王子地区を中心に地元への貢献事業として実施に向けて検討することにした。さくら学園は、就労継続B型事業、相談事業を次年度から実施する準備が整った。また、平成27年度4月1日から運営を開始予定の(仮称)新京福祉センターの職員確保のため、各施設プラス1名の職員採用を実施したが、施設内での退職などで吸収されたため、次年度に課題が先送りされた。法人の社会貢献事業は、厚生労働科学研究所の「HIV長期罹患者の福祉施設の受け入れ」は、今年度から、更に3カ年間で継続され、「受け入れマニュアル」に基づく全国で

された。

新会計制度の導入については猶予があるが、武蔵野会は、導入に向けて法人係長を中心に事務局・施設長で研修会を行う等、準備を進め、25年度4月の導入を決定した。各施設の会計については、1年を通して定期的に点検する外部監査が定着し、適切な施設会計、法人会計に心がけた。次年度に向けての職員採用については、年度当初の法人説明会と6月の採用試験など、例年より早い対応をしたが、10月の募集では昨年度の半数にも満たなかったため、入所施設は欠員を抱えたまま次年度を迎え、大きな課題を残した。

災害に対する事業継続計画については、各地区に担当者をおき、各職種ごとに施設内で計画をたて、実際に行動を起こせるように検討を進めたが、未だ、十分な形にはなっていない。広域災害については日本福祉大学の提携法人間でネットワークが作られ、協定を結んだ。また、広域災害に関するNPO法人の「サンダーボード」に加入した。今年度、防災において特筆するのは、施設長やBCPの担当役職を中心として、防災士研修

に退職し混乱したため、理事長が役職職員全員の面接をして状況を把握し、法人次長を中心とした長期サポート体制を組んだ。現任の役員や職員が、法人内施設から異動、出向してきた複数の職員、中途採用した職員の育成に力を注ぎ対応した。更に、多めに採用した次年度の新人職員を年度内に招集して育成し、次年度に備えた。また、武蔵野児童学園では一部の職員の利用者への不適切な支援があり、改善に向けて職員全員で取り組んだ。

サービス評価

9年連続で今年度も第三者評価機関によるサービス評価を受審した。今年度は評価機関を1社にせず、入所施設は日本高齢者介護協会、児童養護施設はごとくの会、通所施設は、NPO人材開発機構、と3社と契約した。区立施設や高齢者施設等は区の指定する機関で行うため法人では契約できなかった。評価結果は全体的には良好だが、施設により差がでた。次年度に向け、評価結果を真摯に捉え次年度の事業計画に反映させた。

を受け、終了後に防災士の資格試験を受けて全員が防災士の資格を得たことである。管理職、役員が防災への意識を高める上で大きな意味があった。

次年度6月に法人創立50周年を迎えるため、プロジェクトチームを中心に、記念式典の準備や50年史の作成を進めた。会場は品川のホテルに決定し、来賓への招待状やプログラムの打ち合わせが予定通り進んだ。50年史は、法人や施設の歴史の原稿や写真、役員による座談会等、全ページが終了し、最終の確認を残すだけとなった。

継続した法人の重点課題である施設の老朽化に伴う建て替えについては、小平福祉園については、西東京市で仮設建設の工程が順調に進み、次年度の利用者の引越しについても地区施設の協力を視野に入れ準備をした。さくら学園は、土地の購入、交換や農地転用への対応はできたが、さくら学園の建て替えを含めた法人としての土地利用計画の確定が未だ不十分なため、今年度の補助金申請に合わせ、次年度の計画とした。建て替えが急務である児童学園は、漸く建設用地の取得交渉にいたり、

危機管理

法人のBCPの推進のため、管理職等が防災士研修を受けて防災士の資格を取得した。管理職が率先して自然災害へのリスクマネジメントへの興味と意欲を示すことを重要視した。武蔵野会BCPは御殿場地区のリスクを含め、地区長、施設長がたき台を作成し検討し、次年度に周知する。各施設でできる減災、防災として、家具や事務機器の固定の徹底を促した。また、被災地である南相馬市へのボランティア経験により、被災地の支援とともに、危機意識の向上にもつながった。しかし、災害時の派遣チームの結成については未だ手つかずである。全国に分布する日本福祉大学の提携法人が防災協定を結び広域災害に備える体制の一つができたが、各施設が周辺地域での連携を日頃から結んでおく必要がある。次年度以降の継続した課題である。リスクマネジメント環境推進プロジェクトでは、リスクマネジメント養成研修等を継続し、職員が意識を高め推進できる様に取り組んだ。

お知らせコーナー

- 7月
 2日 係長ダイアログ研修①
 10日 法人運営会議
 12～13日 第3回南相馬ボランティアバスパック
 17日 施設公開 (大泉町福祉園)
 20日 武蔵野会セミナー (日経ホール)
 21日 「福祉の仕事 就職フォーラム」参加
 27日 施設公開 (烏山福祉作業所)
 28日 八王子夏祭り・花火大会 (会場・八王子生活実習所)
- 8月
 7日 法人運営会議
 8～9日 施設公開 (烏山福祉作業所)
 10日 夕涼み会 (すぎな愛育園・八王子身障センター)
 21日 法人施設長研修・会議
 23～24日 第4回南相馬ボランティアバスパック
 24日 世田谷地区実践事例報告会(こどもの城) 納涼会 (光が丘福祉園)
 31日 サマーフェスタ (武蔵野児童学園)
- 9月
 1日 開設記念音楽会 (大島恵の園・第2大島恵の園)
 3日 係長ダイアログ研修②
 11日 法人運営会議
 20～21日 第5回南相馬ボランティアバスパック
 25日 第253回理事会 第1回評議員会
 28日 GENKIまつり (きね川福祉作業所)
 29日 わたぼうし祭 (八王子生活実習所)

社会福祉法人武蔵野会
 創立50周年記念セミナー

『共生社会と人権』

日時 7月20日(土) 12:20～16:30
 会場 日経ホール(千代田区大手町1-3-7)
 参加費 無料

・・・プログラム・・・

<第1部> 特別講演:山崎 史郎氏

消費者庁次長

前内閣府政策統括官(共生社会生活政策担当)

<第2部> シンポジウム「共生社会と人権」

山本 譲司氏 元衆議院議員・ジャーナリスト

市川 和彦氏 会津大学短期大学部社会福祉学科教授

北野 誠一氏 (内閣府)障害者政策委員会委員

NPO法人おおさか地域生活支援ネットワーク理事長

原田 正樹氏(司会) 日本福祉大学
 学長補佐・社会福祉学部教授



気持ちを新たに、今後の活躍に期待します。

永年勤続表彰式

例年では法人の設立月である6月に、京王プラザ八王子で行っていましたが、今年は武蔵野会創立50周年記念の集いの会場であるグランドプリンスホテル新高輪飛天で、記念式典の中で表彰式を行いました。今年度表彰されたのは23名で、勤続30年が4名、20年が6名、10年が13名でした。

平成25年度永年勤続表彰者

勤続30年

上林 悟 (八王子市身障センター)

大島 安彦 (小平福祉園)

鈴木 浩 (さくら学園)

池谷 宏昭 (さくら学園)

勤続20年

大場 忠行 (大泉町福祉園)

金井 浩司 (小平福祉園)

杉山 智子 (さくら学園)

齋藤 光弘 (第2大島恵の園)

長田 ひろ子 (栢植寮)

柳 栄 (第2大島恵の園)

勤続10年

堀田 幸代 (きね川福祉作業所)

相田 美奈子 (白鳥福祉館)

高根 七海 (世田谷福祉作業所)

紙谷 正人 (八王子福祉作業所)

小俣 滋希 (八王子福祉作業所)

和泉 信久 (駒沢生活実習所)

中川 穰 (駒沢生活実習所)

藤本 糧作 (武蔵野児童学園)

小池 磨里 (武蔵野児童学園)

高主 祐司 (九品仏生活実習所)

中神 昌 (希望の里)

久保 浩二郎 (西水元あやめ園)

藤原 起子 (練馬福祉園)

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する24施設と6つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町 1-19-3

電話・FAX 042-626-9772

貸借対照表

平成25年3月31日現在

法人名 社会福祉法人 武蔵野会

資産の部		負債の部	
	金額		金額
流動資産	2,324,188,293	流動負債	391,901,804
現金預金	1,681,321,881	買掛金	0
売掛金	4,188,769	未払金	267,946,096
未収金	619,255,371	預り金	122,932,196
立替金	1,281,780	前受金	1,023,512
前払金	16,607,937	仮受金	0
仮払金	1,532,555	固定負債	372,991,194
固定資産	5,904,143,256	長期設備資金借入金	49,580,000
基本財産	2,387,904,814	退職給与引当金	323,411,194
建物	1,976,172,433		
土地	411,732,381	純資産の部	
その他の固定資産	3,516,238,442	基本金	643,522,735
建物	102,059,138	基本金	643,522,735
構築物	52,623,357	国庫補助金等特別積立金	1,216,552,960
機械及び装置	8,209,481	国庫補助金等特別積立金	1,216,552,960
車両運搬具	24,898,068	その他の積立金	2,681,779,768
器具及び備品	169,212,213	その他の積立金	561,785,204
土地	19,792,448	人件費積立金	477,941,000
建設仮勘定	28,980,000	修繕積立金	0
その他の有形固定資産	89,327,655	移行時特別積立金	117,040,000
権利	193,870	施設整備等積立金	1,466,908,030
収益事業会計元入金	7,875,000	施設運営費積立金	58,105,534
措置施設特定預金	173,577,858		
その他の積立預金	545,599,512	次期繰越活動収支差額	2,921,583,088
人件費積立金	395,000,000	次期繰越活動収支差額	2,921,583,088
移行時特別積立預金	117,040,000	(うち当期活動収支差額)	549,059,546
施設整備等積立預金	1,383,518,030	純資産の部合計	7,463,438,551
施設運営費積立預金	67,044,368		
その他の固定資産(従事者共済)	323,411,194		
その他の固定資産	7,876,250		
資産の部合計	8,228,331,549	負債・純財産合計	8,228,331,549

資金収支決算内訳表

(自)平成24年4月1日 (至)平成25年3月31日

法人名 社会福祉法人 武蔵野会

勘定科目		決算額
就労支援	就労支援事業収入計	63,455,142
	就労支援事業支出計	61,739,134
	就労事業活動収支差額	1,716,008
經常(福祉事業)活動による収支	介護保険収入	408,483,361
	介護福祉施設収入	296,378,857
	在宅介護料収入	49,590,638
	短期入所介護料収入	48,579,258
	居宅介護事業収入	13,653,391
	短期予防介護料収入	137,287
	居宅予防介護支援事業収入	143,930
	自立支援費等収入	2,895,753,669
	介護給付費収入	2,240,608,032
	訓練等給付費収入	242,354,647
	障害児施設給付費収入	115,053,072
	特定障害者給付費収入	35,092,156
	利用者負担金収入	262,645,762
	補助事業収入	382,750,610
	補助事業収入	121,850,835
	受託事業収入	217,860,895
	利用者負担金収入	14,909,565
	その他の補助金収入	28,129,315
	利用料収入	75,763,417
	利用料収入	1,146,702
	利用者負担金収入	6,392,660
	介護福祉施設利用料収入	55,840,883
	在宅介護利用料収入	4,429,150
	短期入所介護利用料収入	7,954,022
	措置費収入	205,530,437
	事務費収入	165,153,572
	事業費収入	38,168,384
	その他措置費収入	2,208,481
	受託事業収入	339,297,224
	私的契約利用収入	971,554,043
	經常経費補助金収入	1,284,529,026
	寄付金収入	16,435,885
	雑収入	108,385,089
借入金利息補助金収入	532,500	
受取利息配当金収入	1,441,701	
会計単位間繰入金収入	14,848,585	
特別事業会計繰入金収入	694,785	
就労支援施設会計繰入金収入	13,027,800	
収益事業会計繰入金収入	1,126,000	
経理区分間繰入金収入	201,730,407	
經常収入計	6,907,035,954	
人件費支出	4,182,661,233	
役員報酬	7,200,000	
職員俸給	1,826,256,831	
職員諸手当	1,059,228,970	
非常勤給与	747,490,715	
退職共済掛金	38,710,200	
法定福利費	503,774,517	
事務費支出	1,198,099,255	
福利厚生費	24,950,718	
旅費交通費	16,827,953	
研修費	10,479,968	
消耗品費	20,270,474	
器具什器費	14,154,750	
印刷製本費	17,477,280	

勘定科目		決算額
經常(福祉事業)活動による収支	水道光熱費	25,645,758
	燃料費	3,559,307
	修繕費	40,957,068
	通信運搬費	18,422,109
	会議費	165,529
	広報費	5,873,747
	業務委託費	694,683,045
	手数料	64,532,123
	損害保険料	12,123,853
	賃借料	88,973,156
	租税公課	2,736,522
	雑費	136,265,895
	事業費支出	683,373,188
	給食費	258,693,673
	保健衛生費	20,337,801
	被服費	14,691,715
	教養娯楽費	42,005,084
	日用品費	24,558,896
	本人支給金	26,993,044
	光熱水費	189,940,155
	燃料費	27,260,431
	消耗品費	14,086,967
	器具什器費	18,659,210
	指導訓練費	775,236
	賃借料	5,109,067
	教育指導費	36,692,830
	就職支度費	1,500,550
	医療費	176,392
	修繕費	724,598
	雑費	628,669
	利用者負担軽減額	538,870
	借入金利息支出	532,500
	会計単位間繰入金支出	13,027,800
福祉事業会計繰入金支出	13,027,800	
経理区分間繰入金支出	201,730,407	
經常支出計	6,279,424,383	
經常(福祉)活動資金収支差額	627,611,571	
施設整備等補助金収入	40,218,000	
固定資産売却収入	3,345,000	
施設整備等収入計	43,563,000	
固定資産取得支出	190,585,953	
建物取得支出(基本)	82,525,054	
車両運搬具取得支出	7,845,099	
器具及び備品取得支出	41,859,343	
土地取得支出(基本)	22,152,457	
土地取得支出(固定)	21,714,000	
建設仮勘定取得支出	14,490,000	
施設整備等支出計	190,585,953	
施設整備等資金収支差額	△ 147,022,953	
収入	積立預金取崩収入	156,400,800
財務収入計	156,400,800	
支出	借入金元金償還金支出	10,130,000
積立預金積立支出	447,025,000	
財務支出計	457,155,000	
財務活動資金収支差額	△ 300,754,200	
当期資金収支差額合計	181,550,426	
前期末支払資金残高	1,750,736,063	
当期末支払資金残高	1,932,286,489	